

## 辛い過去から学んだこと

昭和町立押原中学校三年 河田 実侑

私は中学校に入学後、運動部に所属し朝練、放課後練と、勉強と友達とわいわいとおしゃべりが楽しく中学校生活を謳歌していました。忙しくても楽しい毎日でした。しかし、「学校へ行きたくない」中学二年生の三学期、私が毎日発していた言葉です。世間では、いじめ、誹謗中傷、人種差別など人権を無視し、人を疎外することが横行し、頻繁にニュースになっています。私も周囲から傷つけられ辛い経験をしました。人を傷つけることへの罪悪感もなく、何気ない軽い気持ちで人を傷つける人が増え、特別なことではない世の中になってしまっていると感じました。

中学二年生の三学期その頃の私は、友達だと思っていたクラスの仲間から悪口、無視、のけ者にされ周囲から孤立する経験をしました。孤独で悲しく、自分は何をしたら良いのか分からず悩み、不安な日々が続きました。学校へ行くのが辛く、「死にたい」とまで思うことさえありました。いつからそのようになったのか、今でもはっきり覚えています。ある日、いつも通り楽しく学校に登校し、いつも通り友だちに「おはよう」と声を掛けました。しかし、友だちは何も言わずに、その場を立ち去りました。その後「今日はどうしたの」と挨拶を無視されたことに対しその真意を聞いたところ「近づかないで、きもいから」と冷たく言われ、私は手をにぎりしめ泣くのを我慢しました。そして、言葉では言い表せないほど悲しみと衝撃を受けたことを今でもはっきり覚えています。それ以降、無視される日々が続きました。勇気を出し無視する友達に自分から接し、状況を改善しようと何度か挨拶をこころみるも「あいつよく学校に来られるね」と言われたり、故意に体をぶつけて来たり静かに教室に居るだけでも何をして拒まれるばかり、悪質な行動はエスカレートする一方で何も変わらず私自身が「もう無理」と諦めていました。今では状況が改善し学校が楽しいと思うほどにもなりました。

辛い状況だった時は周囲が手を差し伸べてくれ、私をサポートしてくれました。先生は様子がいつもと違う私に気づき「大丈夫。何かあった」と声を掛け話を聞いてくれました。また、家族は毎日、私の弱音を聞いてくれ、どうしたら状況が変化するのか、真剣に一緒に考えてくれました。他のクラスの友達も一生懸命励ましてくれました。周囲に相談し聞いてくれた方々が、私のために

できることをそれぞれが精一杯努力してくださり、結果として環境が少しずつ変化し今では安心して学校へ行けるようになりました。

サポートしてくれた先生、友だちに深く感謝しています。環境を変えてくれたこと、それ以上に私は一人ではない、辛い悲しいときを支えてもらったことで頑張ることができ乗り越えることができたことと痛感しました。今、振り返ると思い出したくない過去ですが、そこから学んだことは多かったと思います。このような事態になったのは、相手の一方的な想いだけではなく、自分にも何かしらの要因があり自分も気づいていなかった悪いところ、注意すべきことを知ることができました。相手を認めお互いの気持ちを認める大切さも学びました。何気なく発する言葉、行為が相手を傷つけることもあり、自分の物差しだけで見ることがとても危険なことだと気付かされました。

また、自分自身が周囲から疎外された時の恐怖は今も心に刻まれ、また同じような事が起こるのではないかと不安になることは今でもあり、一度経験した深い傷は、簡単には消せないのだと感じています。このように人権を踏みにじる行動は私だけでなく他の人でも辛くて苦しい思いをしてしまいます。当たり前のことを当たり前でできる安心できる環境がとても幸せで、貴重なことであり、大切なことを知りました。誰もが、安心して心おだやかに毎日過ごせるそんな環境、美しい世の中になってほしいと願います。世の中を変えることはとても大変なことだと思いますが、諦めたら何も変わらないと思います。私自身も自分に与えられた試練を克服し学んだことを生かすことが、自分にできることであり、私と同じ思いをしている人によりそい支える人になれるよう取り組んで行きたいと思います。私が助けてもらったように相手を思いやる、変化、シグナルに気づいてあげる、変化に気づいたら迷わず声を掛けてあげたいと思います。些細なことかもしれませんが、そのことで少しでも救われる人が居ます。その輪が次第に広がってくれたらと思います。

何があっても人権を侵害するような行動は絶対にいけません。皆違うからこそ皆に良さがあるのです。一人一人が自分をさらけ出せてしがらみのない豊かで、安心して生活できる美しい世の中になって欲しいです。